

1. 調査報告概要表

作成日 成 19 年 11 月 27

【評価実施概要】

事業所番号	1070201817
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホーム ほのぼの
所在地	群馬県高崎市江木町86-5 (電話) 027-325-4165

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミュン100-1B
訪問調査日	平成19年11月14日

【情報提供票より】(19年10月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.6

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	42,170 円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木医院・黒田歯科医院・訪問看護ステーション・老人保健施設ケアピ
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地にあり、明るく落ち着いた中で利用者がゆっくりと生活している様子がうかがえるホームである。開所6年目の現在では、地元や隣接町の長寿会、ボランティア団体、保育園等との関わりも確実に定着している。運営推進会議も行政・地域・家族の参加で活発な情報交換が行われ、ホーム運営の重要な機関になっている。記録も日常の様子が時間経過とともに目に浮かぶような具体的な記載がされており解かりやすい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の内容を会議で検討しできることから改善している。具体的には洗面所や台所の危険物保管場所の変更、金銭管理の重要性を再認識し、買い物や床屋の支払いもしてもらった。玄関の鍵については、現状では鍵をかけないケアの実践を目指しているが、家族の要望により施錠しており、家族の了解を得るまでに至っておらず、今後も引き続き検討課題としている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>現状に満足せず、更に利用者にとって居心地の良いケアを工夫していきたいと考え、取り組みたい項目をチェックした。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はホームの存在を理解してもらいながら、タイムリーな議題を行政・地域・家族も一緒になって検討でき、車イスの設置やオムツサービスの利用・消防団との関係など実績も上っており、ホームにとって欠かせない機関になっている。会議の内容は職員会議でも取り上げ、職員で共有している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の率直な意見がホームの運営に生かせるよう、運営推進会議にも参加を呼びかけ、毎回出席してもらっている。月に1度は面会をしてもらい、生活状況を直接伝える他に、随時電話で連絡して確認報告をおこなっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の長寿会や地区ボランティア、保育園や居酒屋などとの交流は、行事に関わらず日常的に定着している。今後は近隣商店と顔なじみの付き合いができるようになりたいと思っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域の中で、普通のあたりまえの生活を健やかに過ごしてもらおう』という理念は、職員で話し合い2年前にたてた。今年も内容について職員会議で検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議での検討の他に、勤務者2～3名でもその時々で声を掛け合い話し合いをし、日々の実践に結び付けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	踊りや手品・カラオケを通して地元や隣接町の長寿会と交流したり、地域ボランティアに納涼祭の運営から参加してもらっている。また、保育園とは運動会やおやつを通じて行き来があり、敬老の日には居酒屋からの招待に応じたりしている。今後は近所の商店とも利用者が顔なじみのつきあいができるよう努力していきたいと考		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果は会議で検討し、できることから直ぐに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開かれる運営推進会議はホームの運営に欠かせない会議で、家族をはじめ行政や地域住民・ボランティアから出されるダイレクトな情報や意見は、職員間でも共有し実践に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所のほかに法人を通じて市町村とは関わりを持つようにしており、実践に生かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子は面会の時に伝えている。日常的に報告したり確認が必要なことは、その都度電話をしている。行事のお知らせや参加の呼びかけは「ほのぼのタイムズ」を発行しており、報告のために写真を掲載する時には家族の同意を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族に参加してもらうようにしている。率直な意見を出してもらい、運営に生かすようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者への負担を軽減するために、退職・異動前の1ヶ月間は新しい職員と重複した勤務体制をとるようにしている。法人としても本人希望以外には異動も極力しない方向である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修には勤務保障を前提に、交代で参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会には積極的に参加しており、情報交換のできる重要な場と位置付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には家族・関係者の見学はもちろん、第一に利用者本人の納得のいく見学を複数回重ねてもらっている。また、見学ができない場合は、ホーム側から出向いてもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームは利用者・職員の共同生活の場所であるという考え方に立ち、利用者から出される厳しい意見も職員にとって勉強と捉え、丁寧な言葉遣いを心がけながら、よりよい関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを活用し、日常の会話やしぐさからそれぞれの思いを感じ取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーが中心になって作成する介護計画は、本人・家族の意見を取り入れ、職員会議でも検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は月に1度会議でモニタリングをし、計画の見直しは3ヶ月に1度の他に、状況に応じて随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	指定介護予防認知症対応型共同生活介護と医療連携体制を整えて、対応実践している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が月に2回往診している。その他にも気軽に立ち寄って様子をみたり相談に応じてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には重度化した場合の指針を入所時に説明し同意を得ているが、その場の状況に応じて家族・職員・訪問看護・主治医でその都度話し合いながら進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉遣いを基本に対応している。特に排泄の誘導や食事の支援、テーブルの配置などに配慮している。また、「ほのぼのタイムズ」に掲載する写真は同意を得たものを載せている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各自の生活ペースに沿って支援している。食事の時間やテーブルの高さなど状態に合わせた対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け、台所の床掃除など、利用者も一緒になって行っている。季節の食材や好みのメニューも取り入れた食事は個人のペースに合わせて職員も一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日午後2時～4時に健康チェックをした上で入浴支援をしている。拒否される利用者にはタイミングをはかって声かけしたり、家族の協力を依頼するなど工夫している。夜勤帯での入浴は難しいが、清拭には何時でも応じている。「さっぱりした」という声が聞かれるよう努力している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活状況をみながらホーム内の役割を分担した表を作成している。役割は変更見直しも行う。職員は役割がこなせるよう状況をつくり支援し、その都度感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じ、週に数回は買い物や散歩に出かけている。今後は、更に希望に応じて気軽に外に出る場面を増やしていきたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は家族の同意の下で玄関に鍵がかかっている。職員は鍵をかけないケアの意義も承知しており、今後の検討課題になっている。	○	鍵による心理的圧迫感という弊害を考慮したうえで、現状での問題にどのように対処していくか検討し、家族の理解を得ながら鍵をかけない実践に努めていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域ボランティアに働きかけて、年に2回計画して避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や水分摂取量をチェックし、職員が何時でも確認できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い窓からはとなりの庭の木々も見え、明るい館内にはピアノやソファもあり、利用者がゆったり過ごされている。居室前の廊下は車イス2台がゆっくりすれ違えるほど広く、台所も動きやすいスペースが確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具の他に家族の写真や趣味のものが飾られており、それぞれ特徴のある居室になっている。		